「御机」うらばなし

企業支援部　研究調整グループ

■御机（おんつくえ）

令和3年10月10日（日），札幌市の北海道立総合体育センター（北海きたえーる）で開催された，第44回全国育樹祭式典行事で，秋篠宮皇嗣同妃両殿下におかれましては，オンラインにより式典行事のご視聴，全国緑の少年団活動発表団，緑化活動受賞者等とご交流いただきました。

新型コロナウイルスの影響がなく，実際にご来道，ご臨席賜れておりましたら，両殿下に会場でご利用いただけたはずの机が林産試験場で製作した「御机」2台です。オンラインでのご臨席となったため，実際にご着席いただく機会はありませんでしたが，製作の経緯を記しておきたいと思います。

■どんな机

北海道産材を活かし，正面幕板と側面には，北森カレッジの学生が実習で道有林から伐採したトドマツを，当場で製材・乾燥した板材が使われています。天板には豊富な資源量から，今後の活用が期待されているシラカンバを，地元企業に幅はぎしていただいたものが使用されました。フレームには当場が開発した割れにくい道産カラマツ材「コアドライ」を用いています。御机の正面デザインは，北海道の大地に植林されたトドマツがたくましく林立している姿をイメージしています（**図1**，**写真1**）。

■苦労しました

設計はデザインの得意な研究調整グループの大西主任主査が担当しましたが，プレッシャーで眠れぬ夜を幾夜も過ごしたとのことでした。

製作を担当した研究調整グループの住吉主任，岡安主任からは，次のような点に細心の注意を払ったと聞いています。

・材料の選別

割れ，節などで欠点となるものを除き，健全な部分から材料を選別・作製できるよう，チェックにチェックを重ねました。

・部材の寸法・角度

デザインを正確に再現するため，原寸図を印刷し，それに合わせるように個々の部材を切削加工していきました。微妙な角度の部材を，隙間なく割り付けられるよう，何度も確認しながら作業を進めました（**写真2**）。

・部材間の目地加工

目地に関してはデザインのイメージを再現できるよう，いろいろと試作を重ねた上で最もイメージに近いものに決めました。センスが問われるところでもあり，悩みました（**写真3**）。

・荷物置き

表には出ませんが，御机の側，あるいは中に置き，両殿下の手荷物を置いていただく荷物置きも準備していました。側板はトドマツで四隅をあられ組みとし，天板にはトドマツの幅はぎ板を用いました。御机と同じように，細心の注意を払って作製に当たりましたが，人目に触れるものではなく，縁の下の力持ち的存在です。ここで紹介されなければ，おそらく存在さえも知られないものだったと思いますので，紹介できて報われた感じです（**写真4**）。

図1　御机のデザイン

写真1　会場に設置された御机

写真2　デザインに合わせた部材加工

写真3　イメージを再現する目地形状

写真4　荷物置きの設置例と概観

■製作に携わった皆さん

○設計・デザイン

企業支援部研究調整グループ

主任主査　大西 人史

○製作

企業支援部研究調整グループ

主任　住吉 和希，主任　岡安 孝弘

○製材・乾燥

技術部生産技術グループ

主査　土橋 英亮

企業支援部研究調整グループ

専門主任　小川 尚久，技師　加藤 哲朗，

主任　中川 伸一

○シラカンバ天板製作

樹凛工房（上川郡美瑛町）

■おわりに

全国育樹祭式典会場では，両殿下のお手にふれることはありませんでしたが，野村博明道庁水産林務部森林環境局長兼全国育樹祭推進室長から，「いい仕事をしてくれました。」と，お礼と高い評価をいただきました。

この「御机」は，原料丸太の間伐作業を担当した学生たちが学ぶ，北海道立北の森づくり専門学院（北森カレッジ）エントランス正面の1階ホールに設置されました。

訪問される機会がありましたら，是非ご覧ください。

（取材・文責　企業支援部普及連携グループ）